



開発から メンテナンスまで 配管機械工具のトータルメーカー



レッキス工業株式会社

**世界初の
可搬式転造ねじ加工機**

ガス管や水道管等の各種配管用の機械工具を扱うレッキス工業。「切る」「つなぐ」に加えて「ケア」や「システム提案」も行う総合メーカーである。「つなぐ」部門では、創業当時、海外製品しかなかったねじ切り工具を自社で開発、それまで主流だった手動の機械から、モーターで動くパイプマシンへと転換させた。高価な海外製品に比べて、コストが10分の1と大幅にダウンしただけでなく、軽量で前面操作が可能で、使い勝手に優れているのが特長だ。現在、同社が扱うパイプマシンは、様々な材質に対応でき、操作性も向上している。さらに、平成7年には世界初の現場用可搬タイプの転造ねじ加工機を開発し、平成15年には、従来のパイプマシンに搭載可能な自動オーブン転造ヘッドを開発。転造とは従来の切削ではなく、転造ローラを鋼管に押しこめてねじ山を造るもの（塑性加工）で、切削していないため、配管の強度を損なわないのが強みである。その技術は高く評価され、震動が多い新幹線の空調管や耐震性

が求められる高層ビル等の配管に使用されている。またメッキ層を削らないために、腐食しにくいという特長もある。

「空洞の管を転造するのは難しいのですが、お客様が求めるものを提供するが当社の方針ですので、関係業者の協力も得て開発に成功しました」と宮川恭一社長は言う。

さらに同社は、管をつなぐ融着の技術にも優れている。同社が開発したコントローラーは、継手に埋め込ませた熱線に電極を通して発熱させ、管のサイズ等の融着条件をあらかじめ読み込ませたバーコードを認識させることにより、管を溶融して接合する。EF（エレクトロフュージョン）工法に欠かせない物だ。従来の融着機に比べ、作業効率のアップに貢献している。

配管以外の場面でも活躍する管内カメラ

同社が誇る技術には、配管の診断や保全等、ケアの部分もある。配管の中を写す管内カメラは、水道管の中の錆や汚れを見ることができ、重さはわずか5kgと軽量、対角160度の超広角レンズを使用し、画像の精度も高い。最近では、警察での事故車の調査でも利用されていると言う。「予想外のところでも使われているのは、性能や使い勝手の良さ、コストダウンに成功したからです」と爆発的なヒットの理由を宮川社長は語る。

創業80年、常に市場が求めるものをいち早く提供してきた。「当社

は創業社長が輸入商店で培った顧客志向を原点に、お客様が求めるものをキヤッチし、提供することが最優先の課題でした。その結果が自社での製品開発につながっています」。その姿勢は今も変わらず、自社の営業所以外に、41店舗の認定修理店を持つている。きめ細かい対応や、ユーザーの声を拾い上げることで、次の提案に活かしているのだ。お客様、取引先、社員との共存共栄を目指す「三利の向上」を社是に掲げ、さらに役立つものづくりを目指している。

主な事業内容

パイプマシン・各種切断機・融着機・銅管工具機・ダイヤモンド機械工具・環境機器等の企画・開発・設計・製造・販売、水処理事業、ホースアメンテナンス事業等



宮川恭一さん
代表取締役社長

レッキス工業株式会社

Company Profile

住所 / 〒578-0948
大阪府東大阪市菱屋東1-9-3
創業 / 大正14年 8月
設立 / 昭和40年 2月
資本金 / 9,000万円
従業員 / 230名 (平成21年1月現在)
TEL / 072-961-9870
FAX / 072-961-9824

ISO 9001
ISO 14001



<http://www.rexind.co.jp/>